

シキネグラシ

島本位の暮らし



南面道路から住宅を見る。南の増築部は木仕上げであたたかく、明かりが灯る軒下で島民を引き寄せる。



南面の増築部と外構。「ハレ」の日は、コーガ石畳みの上で島民とBBQ。移住者は、軒下と庭先で、島民と自然につながる。



居室から土間と庭を見る。土間で島民に料理を振る舞い、食を介して地域とつながる。居室—土間—庭先まで、視線と風が抜ける。



▲ 平面図 1:50 ▼ 断面図 1:50

01 式根島での生活 インタビューから

— 自然とともにある暮らし
伝統的な知恵を用いて厳しい自然から住まいを守ってきた。農作業や釣りなどで自然と密接に関わる。
— 濃密なコミュニティと「もやい」の精神
自宅で飲食をともにするなど深い関係性をもち、時に不便な島の環境でお互い助け合い生活している。

02 式根島移住へのハードル

式根島への移住希望者は多数存在するが、不動産流通が表立って公開されず、島の住民と関係構築し入居に家を紹介してもらう手法が最も有力である。

03 新島村移住定住促進住宅

時に厳しい移住生活を事前にきちんと理解できるように、新島村は最長三年居住可能な移住定住促進住宅を提供しており、本物件もここに位置づく予定である。地元法人と面談した人・第一次産業への意欲がある人・ファミリー層などが優先的に入居できる。

04 提案

伝統的な「インキョ」の南面に増築を施したファミリー向け移住定住促進住宅のモデルを提案する。

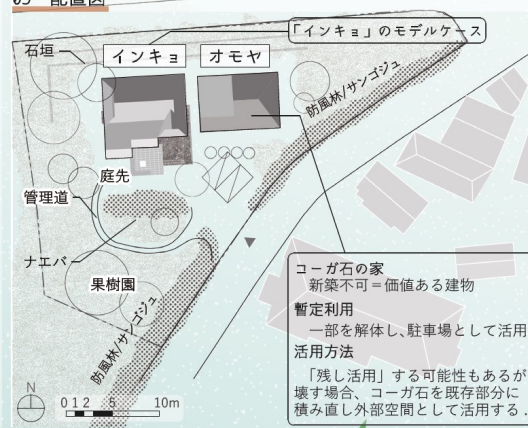
1 既存 2 増築

A - 東西を貫く土間空間
特徴的な島の自然やコミュニティを受け止めてプライベート空間と段階的につなげ 移住者がストレスなく島の環境に段階的に馴染むための中間領域とする。

B - 地域とつながるキッチン
既存の玄関をアイコン的に活かしたキッチンを中心に屋内と庭が土間で繋がる。自然と調和した暮らしを実現しつつ、ハレの日には地域の人が集まる場とする。

C - フレキシブルな増築部の居室
土間を挟んで独立した増築部の子供室は、一時ワークスペースとしたり、将来的にゲストを泊めたりなど、可変性をもつ。

05 配置図



コーガ石の家
新築不可＝価値ある建物
暫定利用
一部を解体し、駐車場として活用。
活用方法
「残し活用」する可能性もあるが、壊す場合、コーガ石を既存部分に積み直し外部空間として活用する。



北側の植え込みは一部剪定し、光が届くようにする。

既存の石垣に守られた家の北側は、移住者のプライベートな空間となる。

腰掛け上はボリカ屋根・深く軒を出して内外を緩やかにつなげつつ、室内の明るさを確保。

サクラ

サンゴジュ

レモン

既存の防風林を生かしつつ枝を透さ、視線の抜けを生む。

メンテナンスが容易な砂利敷にする。

既存の屋根を延長し、徐々に床を下げる。移住者は「島民」と「自然」に緩やかにつながる。

長めに野草を刈り、柔らかい芝生をつくる。

植栽の手入れのための道をつくる。